

伸びる神立の子



H23年12月21日
神立小学校
子育て便り5

「パパに教えてもらったんだ！」

神立小学校では、朝自習の時間に、漢字学習、計算学習、読書、補充学習の4つの学習を週ごとに取り組んでいます。そして、漢字週間と計算週間の最後の日（金曜日）には、その週に学習した内容のまとめとして、「漢字力テスト」「計算力テスト」を実施しています。このテストの結果については、記録カードを使って保護者の方にお伝えしています。また、このテストでは、80点に達しなかった児童に対して再テストを行っており、**基礎・基本の力をしっかり身につけられるように学校としても力を入れて取り組んでいるところです。**

先日、職員室でこんなことを話している先生がいました。

「〇〇先生!A君、今回の計算力テストがんばりましたよ!初めて一回で合格できました!!」これまでなかなか合格できなかったA君が、一回目で合格したものですから、担任の先生もうれしそうに話をしています。

担任の先生は、以前からA君の成績を気にかけていて、これまでも合格に向けて応援していたのですが、なかなか合格できませんでした。A君によく話を聞いてみると今回は計算力テストの前に家でお父さんに勉強を見てもらったのだそうです。「パパに教えてもらったんだ!」と話すA君の姿が目につかぶようです。

担任の先生が教えてもなかなか合格できなかったのに、さすがお父さんです。A君は今回合格したことによって「やればできる」と自分に自信を持つことができたことなのでしょう。とても素晴らしいことです。でも、普段の生活の中では親も忙しいので、なかなか子どもの勉強を見てあげられないことが多いようです。また、家庭は学習の場というよりも、むしろ安らぎの場であるし、親子という人間関係の近さからもうまくいかないことがあるようです。しかし、**親が子どもの学習状況や学力に関心を持って子どもを支えてあげることが、子どものやる気を引き出し、子どもの学びのエネルギーになります。**一般的に子どもの勉強を見てあげられるのは、小学生までと言われていて、中学生、高校生になると学習内容も高度になるし、子ども自身もだんだん親を頼らなくなってきましたので…。**子どもの勉強を見てあげられるのは、小学生の親の特権なのかもしれません。**親が勉強を教えなくなっても小学生のうちに身につけた学習習慣は中学生や高校生になっても生かされます。



さて、冬休みが始まります。この18日間は、保護者の皆さんは、お父さんでありお母さんであると同時に、子どもにとってよい先生となる場面があるかと思います。家族みんなで過ごす時間を大切にするとともに、宿題や学力テストに向けての勉強も充実させていただけたらと思います。

子どもを伸ばす小さなアイデア その5

5 子どもの「なぜ?なに?」を生かしたい

子どもは「知りたがり屋」でいろいろなことを大人に質問してきます。そんなときに「そのうちわかる!」「そんなこと知らなくてもいい!」などと子どもの好奇心の芽を摘んでしまうような対応はよろしくありません。もし、「今忙しいから…」とか「あとにして…」などと言ったのならやはり後で答えてあげることが大切です。

時には親にもわからない質問をしてくることもあるでしょう。そんなときには、子どもと一緒に調べてみるとよいでしょう。子どもの学ぶ意欲を育てることにつながります。まずは、子どもの疑問をきちんと受け止めてあげる親の姿勢が大切だといえます。

「なぜ?なに?」の好奇心がやがて知的なものへの関心へと変わり、学習意欲へと変わるのです。その芽を伸ばしていきたいものです。